はなみずき

発行
東部区民活動センター
運営委員会
〒164-0011
中野区中央 2-18-21
TEL　3363-0631
FAX　3363-0632

2015.9.15　第 18 号

みんなのひろば

今年もやります！
見るだけでは損！
見て・買って・
食べて・参加しよう！
バザーもあるよ！

10 月 3 日(土)・4 日(日)
10 時～15 時

箏演奏（和音）

大じゃんけん大会 4 日 15 時～

レストラン「アカシヤ」

＜展 示 の 広 場＞

作品展示と
ファッションショー

＜いこいの広場＞

お茶と

ハンドマッサージ

＜にぎわい広場＞

スーパーボール と うさごはん

＜ふれあい広場＞

春風亭正太郎

南京玉簾・落語と親子体操

運動会

10月25日　9時～15時
雨天中止
第十中学校校庭

コラム

なかま

日本茶インストラクター
全国茶審査技術六段
村松敬晃
宮二町会在住

『お茶にしましょう』

あなたはお茶と聞いてどんな飲み物を思い浮かべますか？　おそらく聴く人の年代によって違うでしょう。十代から二十代の人はペットボトルの飲み物、三十代から四十代は珈琲かもしれません。しかし、お茶といえば本来、日本茶を急須で入れたものと思います。私は現在、日本茶を販売する仕事をしています。さる平成六年には全国茶審査技術競技大会、これはいわばお茶のソムリエの大会で東京代表として出場しました。

審査は茶の葉を見て品種・摘んだ時期、飲んで生産地を特定するなどの競技で、茶を鑑定する技量を競うものです。全国選抜１２０名規模の大会で全国優勝・個人では準優勝しました。

最近では、食育活動として小学校に伺う機会もあります。朝お茶を飲んで登校してくる生徒は、一％もいません。その一％、半分は麦茶とのこと。又、家庭に急須があると答える子供は、クラスの二割ほどと聞いて驚くと同時に日本の伝統文化を子供たちに伝えなければという強い思いが湧いて来ます。

千利休の茶の湯に始まった喫茶ですが、時の流れが早く殺伐とした現代だからこそ安らぎながらお茶を飲み、家族やまわりの人と語らう事が大切であり「茶は百薬の長」という古来からの言い伝えがある通り、お茶を飲んで毎日の生活を豊かにしたいものです。

集会室抽選日　11月分9月24日（木）　12月分10月19日（月）　1月分11月16日（月）

次号は12月発行予定です。

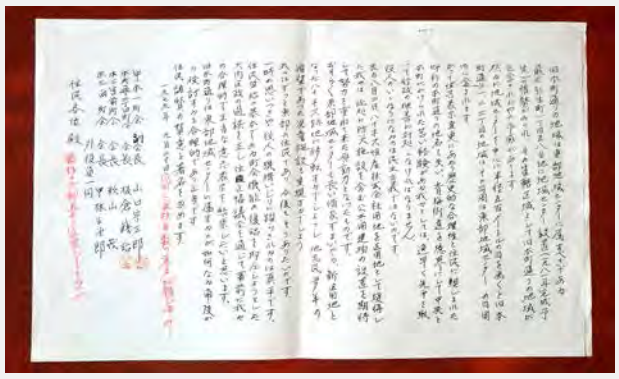
東部の〇〇 第17回

もしかしたら、東部地区町会は、10町会だったかも!!

今から36年前（1979年）頃に、弥生町一丁目58番地に新しい地域センターの設置の計画が持ち上がりました。その中に、旧本町通り一丁目・二丁目・三丁目の地域が含まれる情勢になり、当時の四町会の会長が危機感を募らせ、東部地域センターから外れるのは合理性に欠くとのことで住民の署名に動き出しました。

そのときの署名運動の、文面を掲載します。

〔当時の手書きの書面〕



旧本町通りの地域は、東部地域センターに属すべきである。最近、弥生一丁目五十八番地に地域センター設置（一九八一年完成予定）の情勢がみられ、その管轄区域として旧本町通りの地域が包含されるやの予感があります。

然るに、地域センターを中心に半径五百メートルの円を画くと旧本町通一、二、三丁目の地域は、その円周は東部地域センターの円周内に含まれます。

かつて住居表示変更にあたり、歴史的な合理性と住民に親しまれた呼称の本町通り地名を失い、青梅街道を境界にして中央と本町にわけられた苦い経験がある我々としては、逸早く先手を取って行政の独善に対処しなければなりません。

役人のいいなりになるのは民主主義ではないのです。去る八月二日、ハイネス恒産株式会社社用地を区用地として獲得した我々は、ここに防災施設を含む公共用建物の設置を期待して努力を重ねてきた原動力となったものです。

おそらく、東部地域センターも長い借家住まいから、新区用地なったハイネス跡地に移転するでしょうし、地元民多年の宿望であった児童施設も実現するでしょう。

我々はずっと東部の住民であり、今後もそうでありたいのです。一時の思いつきや、役人の機構いじりに躍らされるのは真っ平です。住民自治の基本である町会機能の復活を抑圧しようとした大内区政の過誤を正し、住区協議会を通じて事前に我々の合理的で正当な意思表示を結集したいと思います。

旧本町通りは、東部地域センターに属するのが如何なる角度から検討するも合理的であり正当です。

住民諸賢の賛意と署名を求めます。

一九七九年　九月二十日

中本一町会副会長　山口宗三郎
本町通り二丁目町会会長　板倉銭治
本三宮前町会会長　秋山　茂
本三西町会会長　中林三次郎
他役員一同

住民各位　殿

第2回 東部地区総合防災訓練の報告

平成27年7月5日(日)に東部区民活動センター運営委員会主催の第2回総合防災訓練が開催されました。

梅雨の晴れ間にならず、第十中学校の体育館と多目的室での実施になりましたが、東京土建中野支部に万全の養生をしていただき、実践型の訓練を行うことができました。

訓練の内容は、救出・救護、応急手当、クロスロード(防災ゲーム)の3班を3グループに分かれて、順次体験しました。

訓練に参加した14町会の人たち

簡易トイレの組み立て

今回の主なテーマは、各町会に備えられた防災倉庫の活用で、倉庫内の資機材の全てを展示し、その中の一部を使って角材や針金などを切ったり、家具の下敷きになった人をジャッキで持ち上げ救出する方法などを実際に体験するものでした。

また止血などの応急手当のほかに簡易担架の作り方や風呂敷2枚で作れるリュックサックの紹介も有りました。

多目的室では、今回初めて、クロスロード（防災ゲーム）を体験しました。このゲームは、正解不正解が無く、災害時のいろいろな問題の対応をグループで考え、さまざまな意見や価値観を参加者同士で共有することが目的で、他町会との交流を行うこともできました。

リュックサック作り

クロスロード(防災ゲーム)

応急手当の様子

訓練には、第十中学校・第三中学校の中学生ボランティアが参加し、地域の方々と一緒に体験しました。第十中学校のボランティアは、避難所用の簡易トイレの組み立ても行ないました。それぞれの役割を決めて、手際よく組み立てる様子に若い力の頼もしさを感じました。

雨天のため、予定していたスタンドパイプの操作、起震車や煙ハウスの体験は出来ませんでしたが、身近な所にある物を活用する訓練を地域で行うことで、防災の自助と共助につながる訓練になりました。

簡易担架作り

ジャッキで家具を持ち上げる

区民と区長の対話集会

《日時》10月6日(火)午後7時～
《会場》東部区民活動センター3階洋室3・4号
《テーマ》10年後の中野のまちの姿について
（サブテーマ）「支えあい・地域コミュニティ」

申し込みは、不要ですので、ぜひご参加ください。

《手話通訳・一時保育》ご希望される方は、9月29日（火）までに、政策室企画担当へ電話（3228-8987）またはファクシミリ（3228-5476）でお申し込みください。

第37回東部演芸大会のお知らせ

―編集後記―

皆さん、東部のまちに住んで幸せと思われるでしょう！　そうです。この紙面でも度々紹介していますが高齢者の安否を気遣い、真心込めたお弁当をお配りする「ふれあい食事サービス」、皆さんと仲よくお顔を合わせ、アトラクションも楽しめる「昼食会」、電球の取り替えや困りごとの相談のできる「あいあいステーション」、幼児や親たちが和やかに遊び、憩える「ぴよぴよひろば」、仲間づくりのイベント、講座、そしてホッと一息つける明るいロビーの「コーヒーサロン」等々。一日を楽しく過ごせる場所が、東部区民活動センターにあります。

職員の方々、ボランティアの人々も優しく支援してくださいます。

皆さんも大いに利用して、日々を楽しみましょう。

地域の皆さんのご意見・ご希望をお待ちしております。

T・U